様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ９ 月 １２ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４４０１０１３

研究課題名（和文）中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略：知のグローバル化とローカル化

研究課題名（英文）Strategies adopted by Islamic Universities in the Middle East and Asia to attract international students: Globalization and localization of knowledge

研究代表者
桜井　啓子（Sakurai, Keiko）

早稲田大学・国際教養学術院・教授

研究者番号：７０２３５２１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中東の三大都市であるエジプトのカイロ、サウジアラビアのメディナ、イランのゴムにあるイスラーム系宗教大学の留学生獲得政策を分析し、いずれの大学もアジアやアフリカなどで卒業生が教師を務めている宗教学校等を通じて留学生をリクルートしていることを明らかにした。また、卒業生は、帰国後、留学先である中東で習得した宗教知識を真正の知識として広めようとする傾向にあるものの、祖国の宗教状況に合わせて取捨選択していることも浮き彫りとなった。。

研究成果の概要（英文）：This research analyzed the strategies adopted by Islamic universities in three cities in the Middle East, namely Cairo in Egypt, Median in Saudi Arabia, and at Qom in Iran, to attract international students. It was found that these universities recruited students mostly through religious schools in Asia and Africa where graduates of these universities were engaged in teaching. Although graduates of these universities disseminated the knowledge gained from Islamic Universities in the Middle East as authentic when they returned to their country of origin, in the places where they were engaged in teaching, they preferred to adapt their religious knowledge to the local religious circumstances.

研究分野：地域研究

キーワード：地域間比較研究　イスラーム系宗教大学　留学生　グローバル化　ローカル化　カイロ　メディナ　ゴム

１．研究開始当初の背景

（1）イスラーム世界では、「知を求めることは全信徒の義務である」、「遥か中国までも知を求めなさい」といったハディース（伝承）があるように、歴史の初期からウラマー（宗教専門家）は、知を求めて各地を旅したことで知られている。そのため、中東の諸都市に誕生したイスラーム諸学を学ぶ学院（イスラームの高等教育機関）は、世界各地から知を求めてやってきた人たちの学ぶ国際色豊かな空間だった。

現代中東のウラマー養成を目的とするイスラーム系宗教大学もまた多くの留学生が学ぶ国際的な高等教育機関として知られているが、前近代のイスラーム学院との間には看過できない相違がある。それは、現代中東のイスラーム系宗教大学の多くが、それを擁する国家の教育政策・宗教政策・外交政策の影響下に置かれているからである。また近代以前の留学は、師と弟子の個人的な繋がりを核に成り立っていたが、現代は、より制度化されたものとなっている点も見逃せない。

このように現代のイスラーム系宗教大学には、それ以前には見られない特徴があるにもかかわらず、留学生を介した現代イスラーム世界における知のグローバル化に関する本格的な研究は未だ実施されていない。

（2）一方で、9.11 以後、パキスタンの宗教学校（マドラサ）が、過激主義の温床となったとの見方から、欧米の研究者によるマドラサ研究が始まった。マドラサ研究がすすむにつれて、パキスタンのマドラサでは、中東のイスラーム系宗教大学への留学経験者の影響力が増しているといった指摘がなされるなど、中東からもたらされる知の影響力が、アジアでのイスラーム理解、イスラーム実践に変化をもたらしつつあるといった見方が浸透するなど、イスラーム教育のグローバルな影響に関心が寄せられるようになった。

こうした研究状況から留学生を受け入れている中東のイスラーム系大学と留学生を送り出しているアジア各地の宗教学校の関係、特に中東のイスラーム系大学の留学生獲得戦略、卒業生を通じたリクルートや知の伝達過程、卒業生が持ち帰る知と地元の慣習との対立、知がローカル化されていく過程など、イスラーム世界における知のグローバル化とローカル化の総合的な解明が必要ではないかと考えるに至った。

２．研究目的

本研究の目的は、以下の 3 点に集約することができる。

(1)現代イスラーム世界においてウラマー（宗教専門家）養成の世界的な中心地として知られるエジプトのカイロ、サウジアラビアのメディナ、イランのゴム等にあるイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略の分析を通じてイスラーム世界における知のグローバル化の過程を解明すること。

(2)留学生の送り出し国であるバングラデシュ、インドネシアなどのアジアの国々での現地調査を通じて、留学生たちの帰国後の宗教教育活動を明らかにする。具体的には、中東で学んだイスラームの知がどのように現地に伝えられているのか、また地元のニーズに合わせて、中東から持ち帰った知がどのようにローカル化されているのかといった諸点を明らかにすること。

(3)史資料の検討を通じて、現代のイスラーム系宗教大学の前身である前近代のイスラーム学院のカリキュラム、教授方法、学生の地域性などを明らかにし、現代のイスラーム系宗教大学との本質的な相違を明確にすること。

３．研究方法

本研究では、主として以下の五つの方法を採用した。

(1) イスラーム系宗教大学を含む関係諸機関の訪問ならびに関係者へのインタビュー。
(2) ウラマー養成に関わるイスラーム教育関する史資料の収集とその分析。
(3) イスラーム系宗教大学の要覧、ウエブページ、広報誌等の収集と分析
(4) 留学生の送り出し国における上記三国のイスラーム系宗教大学の卒業生へのインタビュー。
(5) イスラーム系宗教大学へ留学生を送り出しているアジア各地の宗教学校の訪問と関係者へのインタビュー。
(6) 海外の研究機関に所属する研究者との共同研究の実施。具体的には、研究協力者との共編による英文書籍の出版、現地調査の共同実施、論文の共同執筆などで

ある。

４．研究成果

本研究の成果は、中東やアジアで実施した史資料収集ならびに関係者へのインタビューで得た知見、イランのイスラーム法学者を講師とする研究会、2012 年にオックスフォード大学にて同大所属の研究者と、2014 年にプリンストン大学にて同大所属の研究者と共催した国際セミナーで得た知見等にもとづくものである。具体的な成果は(1)図書・論文等、和文英文による発信、(2)学会・研究会における発表の二つである。

(1) 図書・論文

①Masooda Bano and Keiko Sakurai (eds.) *Shaping Global Islamic Discourses, the role of al-Azhar, al-Medina and al-Mustafa* (Edinburgh University Press:2015)。本書は三部構成となっており、第一部では、現代イスラーム世界におけるウラマー養成の最高学府であるエジプトのアズハル大学、サウジアラビアのマディーナ・イスラーム国際大学、イランのアル・ムスタファー国際大学の成り立ち、留学生獲得戦略、留学生教育の特徴を分析し、相互に比較した。その結果、これら三校は、宗派やイスラーム法学上の相違から異なるイスラーム解釈に依拠した宗教教育を行っており、留学生獲得においても競合関係にあることが明らかとなった。またサウジアラビアとイランのイスラーム系宗教大学における留学生教育は、両国の宗派アイデンティティや宗教政策と密接な関係がある点も明らかとなった。

第二部では、中東のイスラーム系宗教大学で学んだ若者たちの帰国後の活動を、ナイジェリア、インドネシア、モロッコの事例を通じて分析した。その結果、中東で生まれた新しいイスラーム解釈が卒業生を通じて世界各地に拡散していることを明らかにするとともに、卒業生がもたらす新しい知とこれまで地元で支配的だった宗教解釈や実践との間に対立や緊張が発生していることを突き止めた。

第三部では、中東のイスラーム系宗教大学に留学した人々が持ち帰る知は、長年にわたって現地のイスラーム教育のカリキュラムやイスラーム法解釈に多大な影響を与えていきたが、一方で、時の経過とともに、現地の人々のニーズや社会状況に合わせて改良が加えられている点を明らかにした。

本書を通じて、本研究が目的とした留学生を受け入れている中東のイスラーム系大学と留学生を送り出しているアジア各地の宗教学校の関係の全体像を提示することができた。また、本書は、オックスフォード大学所属の研究協力者と共催した国際セミナーが土台となっている。英文のウエブページ等を通じて会議参加者、論文寄稿者を募ったことで、国内外から本研究の遂行に必要な知見や研究者を集めることができた。

②桜井啓子『イランの宗教教育政策：グローバル化と留学生』（山川出版社 2015 年）。本書では、イランにおけるイスラーム系宗教大学の歴史と留学生募集や留学生教育の特徴を詳説するとともに、現地調査に基づく卒業生の帰国後の宗教活動や卒業生と母校の繋がりなどを考察し、宗教教育を通じたイランとアジア諸国の繋がりを明らかにした。

③「バングラデシュの十二イマーム・シーア派――来歴と現状」（『イスラーム地域研究ジャーナル』第 8 号 2016 年）。本稿は、桜井と研究協力者のコビル氏が共同執筆したもので、中東に留学経験のあるバングラデシュの宗教指導者へのインタビューをもとに、バングラデシュと中東との宗教教育を通じた繋がりを考察した。バングラデシュに焦点を当てた本研究は、今後も継続の予定である。

④研究分担者西村氏による中世イスラーム世界におけるウラマーの移動と知の伝承に関わる研究であり、「12 世紀ホラーサーン地方の一アーリムに関する研究の現状と展望」『西南アジア研究』第 83 巻 2015 年は、その一例である。

⑤ Keiko Sakurai “ Iran: Three Dimensional Conflicts” in Mah-E-Rukh Ahmed (ed.) *Education in West Central Asia*, London: （Bloomsbury Academic, 2013）。本稿では、イスラーム系宗教大学と一般大学の留学生政策の類似と相違を考察した。

（２）海外の大学に所属する研究者との国際セミナーの共催。

① オックスフォード大学の国際開発学部所属の研究者と共催した“Centres of learning and changes in Muslim societies”（オックスフォード大学　2012 年 8 月）では、研究代表者が、

本研究のフレームワークを説明するともに、イランを事例とする中東とアジアの宗教教育を通じた知の交流について研究発表した。参加者からのフィードバックを得て、本研究の基本構想を確定することができた。
② プリンストン大学の近東研究学部所属の研究者と "'Ālimahs, Muhaddithahs, and Mujtahidahs': The Past and Present of Female Religious Authority in Shi'i Islam"（プリンストン大学　2014 年 3 月）を共催した。既存の研究との差別化を図るために、女性の宗教専門家に焦点を当て、イスラーム世界における知の伝承の歴史的、現代的特徴について討論した。このセミナーでは、前近代からイスラーム世界では知の伝承者として名を残した女性たちがいたものの、宗教学院が女性の入学を許可してこなかったことから、ウラマーを親族にもつ女性でなければ学問を積むことは事実上不可能だった点が明確となった。

（３）国際学会での発表
① 2015 Gulf Research Meeting（英国ケンブリッジ大学　2015 年 8 月）では、サウジアラビアとイランにおけるイスラーム系宗教大学と一般大学の留学生獲得政策の特徴を比較し、イスラーム系宗教大学独自の戦略を明らかにした。
② The Seventh Biennial Convention of The Association for the Study of Persianate Societies (ASPS)（トルコ・イスタンブル、2015 年）では、1980 年代から 90 年代にかけてイランのイスラーム系宗教大学に留学したバングラデシュの宗教指導者へのインタビューを元に、イランへの留学が、マイノリティであるバングラデシュのシーア派に新たな教育機会をもたらしてきたことやシーア派の福祉や宗教活動の改善に寄与していることを明らかにした。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計 3 件）
① 桜井啓子、フマユン・コビル「バングラデシュの十二イマーム・シーア派――来歴と現状」『イスラーム地域研究ジャーナル』第 8 号　2016 年、pp. 54～63
② 西村淳一「12 世紀ホラーサーン地方の一アーリムに関する研究の現状と展望 ― アブー・サード・アブドゥルカリーム・アッサムアーニーについて ―」『西南アジア研究』査読有、第 83 巻、2015、pp.34-54
③ Keiko Sakurai, "Shi'ite Women's Seminaries (howzeh-ye 'elmiyyeh-ye khahran) in Iran: Possibilities and Limitations", *Iranian Studies*, 査読有、vol.45, no.6, 2012, pp.727-744

〔学会発表〕（計 5 件）
①西村淳一「中世イスラーム世界のウラマーの「よそ者」観 ― 12世紀以前の人名録史料を手掛かりに ―」史学会、2015年11月15日、東京大学
②Omar Farouk, "The Dynamics of Inter-religious Coexistence in Penang", *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, organized by Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa*（ILCAA）, Tokyo University of Foreign Studies, Le Meridian Hotel Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 2015年9月27日
③Keiko Sakurai, "Twelver Shi'a in Dhaka, Bangladesh: The Emergence of New Leadership", *The Seventh Biennial Convention of The Association for the Study of Persianate Societies* (ASPS), Mimar Sinan Fine Arts University, Istanbul, Turkey, 2015 年 9 月 9 日。
④ Keiko Sakurai "Islam and 'Global' Standards: Higher Education in Iran and Saudi Arabia", *2015 Gulf Research Meeting,* University of Cambridge, 2015 年 8 月 25 日.
④ Omar Farouk, "The Indonesianization of Islam in Taiwan", *International Conference on Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies With in a Symbiotic Framework,* Asia-Europe Institute, University of Malaya, 2014 年 12 月 13 日.

〔図書〕（計 5 件）
① Masooda Bano and Keiko Sakurai (eds.) *Shaping Global Islamic Discourses- The role of al-Azhar, al-Medina and al-Mustafa*, Edinburg University Press, 2015, 231.
② 桜井啓子『イランの宗教教育政策―グローバル化と留学生』山川出版社、2015、106
③ Yukari Sai and Johan Fischer, 'Muslim food consumption in China: Between qingzhen and

halal', Bergeaud-Blackler, Florence, Fischer, Johan and John Lever (eds.), *Halal Matters:Islam, Politics and Markets in Global Perspective,* Routledge, 2015, pp.160-174
④ Miichi, Ken, Farouk, Omar (eds.), *Southeast Asian Muslims in the Era of Globalization,* Palgrave Macmillan, 2014, 288.
⑤ Keiko Sakurai, "Iran: Three Dimensional Conflicts" in Mah-E-Rukh Ahmed (ed.) *Education in West Central Asia*, London: Bloomsbury Academic, 2013, pp.58-78.

６．研究組織

(1)**研究代表者**

桜井啓子（SAKURAI　KEIKO）
早稲田大学・国際学術院・教授
研究者番号：70235216

(2)**研究分担者**

鈴木恵美（SUZUKI　EMI）
早稲田大学地域・地域間研究機構・准教授
研究者番号：00535437

西村淳一（NISHIMURA　JYN'ICHI）
早稲田大学イスラーム地域研究機構・准教授
研究者番号：10380700

Omar Farouk (**オマル　ファルーク**)
広島市立大学・国際学部・研究員
研究者番号：30275391

砂井紫里（SAI　YUKARI）
早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員
研究者番号：90367152